

まちの話題

このコーナーでは、イベントやまちの話題、団体の活動などを紹介しています。耳寄りな情報は秘書広報課まで（市役所内線207）。

紙面に載せきれないまちの話題がどんどん届きます。西脇市 Facebook で情報発信中！

西脇市消防大会を開催

〔4月1日 西脇市民会館ほか〕

平成30年度西脇市消防大会が開催されました。消防団は市民の生命と財産を守る最も身近な防災機関で、団員の皆さんは日々、精力的に訓練を行うほか、地域行事にはボランティアとして参加するなど、地域の欠かせない存在となっています。



大会には消防団員ら約550名が参加



新入団員による宣誓

消防大会では、西脇市消防団の消防自動車57台による行進に続き、新入団員への辞令交付や功労者への表彰状授与、退団者への感謝状贈呈が行われました。式典後には三和橋付近で、ポンプ車から杉原川への一斉放水が行われ、見学する市民から歓声が上がりました。

防災拠点施設がリニューアル

〔4月3日 西脇消防署〕

昭和55年に旧西脇市多可郡消防事務組合の消防本部と消防署を兼ねて建設された西脇消防署庁舎の耐震改修と増改築工事が完了し、旧加東市役所滝野庁舎内から西脇消防署内へ本部機能を移して、業務を開始しました。新庁舎は地上4階建て、延べ床



増改築された西脇消防署庁舎

面積が以前の約3倍の3,382平方メートル。地下に雨水を利用した40トンの防火水槽や、さまざまな災害を想定した訓練施設を備えています。新庁舎には24時間体制で指揮隊を配置し、災害発生時には西脇消防署と消防本部が連携し、効率的な運用を図ります。



新庁舎の記念式典には関係者約60名が出席

旧来住家住宅の来館者が25万人を突破

〔4月3日 旧来住家住宅〕



セレモニーでは25万100人目の来館者に播州織で作られた花束や播州織オーダーシャツを贈呈

国の登録有形文化財・旧来住家住宅の来館者が25万人を突破し、大正7年の建築から100年を迎えることちなみ、25万100人目の来館者に記念品が贈呈されました。同館は平成15年に一般公開されて以降、年間約17,000人が訪れており、まちづくりや観光の拠点施設となっています。

古民家の新たな門出を祝う

〔4月8日 和田町〕



思い入れのある古民家に若者たちも笑顔（事業主体＝重春・野村地区交流推進委員会）

地域が空き家の活用について取り組むモデル事業が完了し、関係者が完成を祝いました。メンバーは昨年9月から3回にわたって、キッチンの取り換えやカーテン作りを行うなど、木造平屋建ての空き家を改修。古民家には今春から1名の入居が決まったほか、今後も幅広い活用が検討されています。

市原鉄道記念館の展示車両をきれいに

〔3月27日 鍛冶屋線市原駅記念館〕



生徒らは車両に付着した汚れを落として車両全体にコーティング剤を塗布

西脇高校の生徒ら約50名が鍛冶屋線市原駅記念館の展示車両に劣化を防止するためのコーティングを施しました。車両の絵は沿線の活性化を目的に、本市出身で絵本作家の吉田稔美さんと地域の皆さんが平成22年に描いたもの。この日は吉田さんの呼び掛けに生徒らが応じてコーティング剤を塗りました。

Photo Gallery

まちの話題や風景を写真で紹介



「春の全国交通安全運動」に合わせ、ええまち比也野里が街頭啓発を実施。は比延小学校と双葉小学校の児童らと安全運転を呼び掛けました。（4月14日、比延地区各所）



西脇ライオンズクラブがみらいえのロータリー付近に、青少年の健全育成の願いを込めた啓発看板を設置しました。（4月10日、茜が丘複合施設 Miraie）



市役所1階の市民ギャラリーで、播州織を使用した株式会社丸萬のブランド「La mamarge」の製品を展示しています。（6月30日まで、西脇市役所）



市役所2階の郷土作家ギャラリーで西脇市美術協会新会員展を開催。湯浅和美さんと荻野かおるさん、宮崎幸子さんの作品計9点を展示しています。（5月31日まで、西脇市役所）